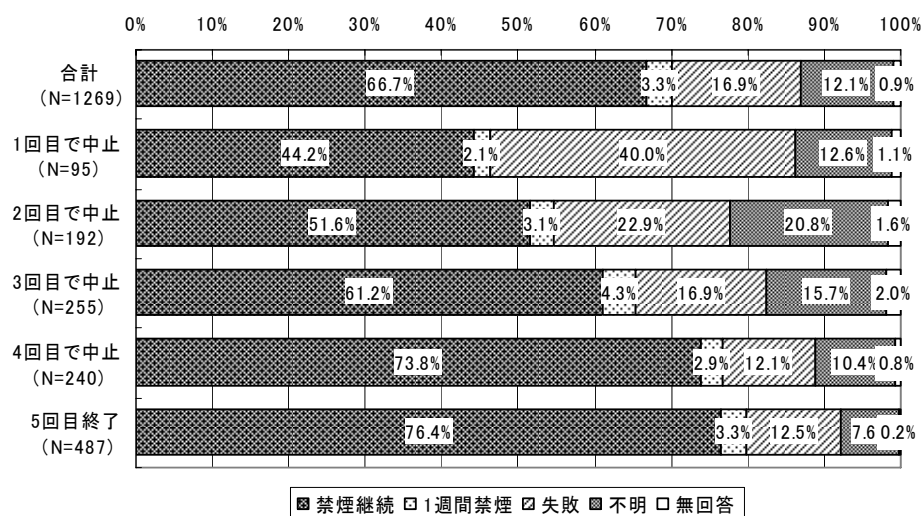


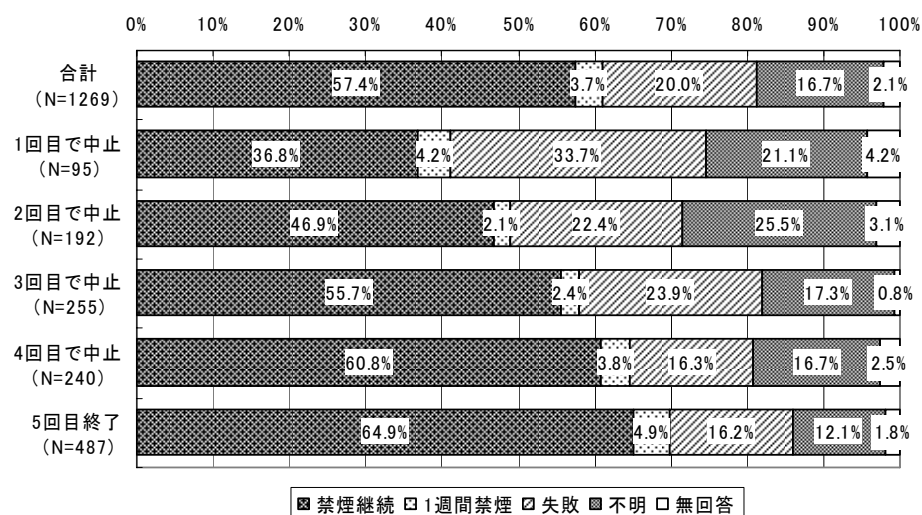
また、途中で治療を中止したが中止時に禁煙していた人、および5回の指導を終了した時点で禁煙（1週間禁煙もしくは4週間禁煙）していた1,269人について、ニコチン依存症管理料の算定回数別に、指導終了3ヶ月後の状況と6ヶ月後の状況を比較した。

その結果、6ヶ月後は全体的に禁煙継続割合が下がっていたが、算定回数が多いほど禁煙継続の割合が多い傾向は変わっていなかった。

図表 44 指導終了3ヶ月後の状況（算定回数別：指導中止時／終了時の禁煙者のみ）



図表 45 指導終了6ヶ月後の状況（算定回数別：指導中止時／終了時の禁煙者のみ）



6. まとめ

- ・ ニコチン依存症管理料の施設基準の届出時期は、病院、診療所ともに診療報酬改定直後の平成18年4月が多かった。また、6月のニコチンパッチ等の保険適用を受けて、届出数が増加している傾向が認められた（図表10）。
- ・ 禁煙治療については、病院では約半数が専門外来を設置するなど、特別な体制で行っていたが、一方、診療所においては9割弱が通常の診療体制の中で実施していた（図表11）。
- ・ 患者に対する1回当たりの指導時間は初回と2回目以降では異なり、初回は「30～40分」が最も多く平均は24.86分であり、2回目以降は「10～20分」が最も多く平均は12.59分であった。初回の平均指導時間については、病院が平均29.40分であるのに対し、診療所では平均23.85分と病院の方が指導時間が長い傾向が見られたが、2回目以降では病院が平均14.43分、診療所12.14分と同様の傾向であった（図表15、図表16）。
- ・ 今回の調査対象患者においては、28.4%がニコチン依存症管理料を5回まで算定していた。一方、1回目や2回目で中止してしまう患者も各々2割弱認められた（図表24）。
- ・ ニコチン依存症管理料を5回全て算定した患者では、指導終了時点で73.8%が4週間禁煙をしていた（図表25）。
- ・ ニコチン依存症管理料の算定を4回目までに中止した患者では、中止時に44.8%が禁煙していた。ニコチン依存症治療を実施した回数が多いほど、中止時の禁煙率が高い傾向が認められた（図表29）。
- ・ 指導終了3ヶ月後の状況をみると、全体で31.7%が3ヶ月後も禁煙を継続していた。5回の指導を全て終了した患者では3ヶ月後の禁煙継続率は58.9%であった。治療（指導）の回数が多いほど、禁煙継続率が高い傾向が認められた（図表34）。
- ・ 二次調査において、指導終了3ヶ月後および6ヶ月後の状況をみると、全体で3ヶ月後の禁煙継続率は34.8%、6ヶ月後の禁煙継続率は32.7%であった。5回の指導を全て終了した患者の3ヶ月後および6ヶ月後の禁煙継続率は各々63.2%、53.7%であった。治療（指導）の回数が多いほど、禁煙継続率が高い傾向が認められた（図表42、図表43）。